

生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第9回）議事要旨

日時：平成16年6月24日（木）10:00～12:00

場所：市役所404会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

1. 中間報告について

中川委員：今日の議題は3つある。中間報告の取扱いについては、印刷物としては完了しており、今後どのように取り扱うかということ。一つは市長さんに出すということ。これは当然のことである。もう一つは、これをいろんな場面で活用していくということ。

事務局：コミュニティセンター、中央公民館、公民館分館など主要な公共施設に配置し、市民の目にふれるようにしたい。まず、市への報告、市議会への報告を行い、その後配布する。そして、シンポジウムにも活用していきたい。

中川委員：議会への報告はどのような形になるのか。

事務局：議会で、進捗状況、今後の展開について一般質問があり、中間報告がまとまった段階で配布するという答弁をしている。

中川委員：議員への説明は。

事務局：正副議長に説明し、その後で各議員に配布する予定である。理事者への説明については、シンポジウムの件もあるので、準備会の皆様または代表者からお願いしたい。

中川委員：首長への報告については日程調整も必要であるので、弾力的に対応させていただきたい。

事務局：全員となれば日程調整が難しいので、できれば会長・副会長に一任ということをお願いしたい（協議の結果、会長・副会長一任に決定）。

2. シンポジウム開催に向けて

中川委員：目的はこれでいいと思うが、テーマはちょっと長いのでは。「21世紀型生駒流市民自治を考える」というのはどうか。

野口委員：柔らかい感じでよいのでは。

中川委員：「生駒流」で決定。字体もやわらかくする。また、「21世紀型」ではなく、「21世紀の」にする。主催等については前回議論になったが、これでいいか。

森委員：前回は申し上げたが、主催に市会が入らないのはどうしてか。

中川委員：形式的にいうと市会が主催というのは聞いたことがない。

事務局：まずは中間報告書を議会に届けたいと考えている。議会には議会としての考え方があると思うので、それを尊重したい。今後入る余地があるということである。

森委員：この段階までできているのであるから、早急に市議会と話をしていただきたい。

上埜委員：これは市議会自身で決められることであり、ここで議論しても仕方ない。

事務局：議会も本準備会の動きは承知されているが、まだそこに入っていこうとは思っていないということである。次の検討委員会になれば、構想づくり、条例化などがあるので議会も入っていたかできない。議会の参加はその段階でいいのではないかと考えている。

相川委員：前回、挨拶のところで議長の挨拶があってもいいのではということになった。呼びかけてみて、挨拶をするかどうかは議会の判断である。

中川委員：ここでの議論は公開されているが、フォーマルになるのはこの報告書が議会に配布されてからになる。議長の挨拶については副委員長の方から確認に行くことになっている。まだ地ならしの段階であるから、議会が初めから関わるのは難しい。

金谷委員：シンポジウムに議長さんをお招きして、簡単な挨拶をいただき、シンポジウムをきっかけとして立ち上げていくことになればよい。それをまず成功させるのが当面の目標だと思う。

鶴田委員：市民自治の構想から条例を目指していくのであれば、今は準備会であるが、検討委員会になったときに議員さんが2～3人入っていただけたらと思う。

相川委員：中間報告がオープンになってからの反応を見ながらでよいのでは。

中川委員：参考までにデータを紹介するが、現在自治基本条例が11ある。そのうち議会の責務、役割等について明記しているのは生野町、吉川町、鳩山町である。議会の役割についてだけ述べているのは、羽咋市、会津坂下町である。後はみな避けているが、なぜか。自治基本条例そのものが、議会の権能というものに対してある意味では対抗するという流れが現実にある。議会の改革、行政

の改革、あわせて地域社会、市民社会の改革が必要である。まずは市民から始めないとだめである。次に行政が自動的に改革され、三番目に議会がついてくるという流れになってくるのではないか。

事務局：議員からは、これを政治的に利用されるということがないように注意してほしいという意見があった。

中川委員：議員の方にも、政党感覚ではなく市民感覚で来てもらう必要がある。市民自治と議会との関係については多くの検討課題がある。この検討をどの程度の期間でやっていけるかが今後のポイントである。次に、期日については9月の土、日ということか。

森委員：土曜日は働いている人も多いので、やはり日曜日がいいと思う。

上埜委員：中央公民館は人は多く入れるが、パネルディスカッションとかの意思疎通ということではコミュニティセンターの方がいいのではないか。

中川委員：ちょっと立ち見が出るくらいの方がよい。参加者が少ないと盛り上がらない。

中川委員：周知方法はこれをお願いしたい。次に内容であるが、挨拶は私がするということか。また、市長、議長に挨拶をお願いする。

森委員：周知方法で、ケーブルテレビの「ラブリータウン生駒」も使ってほしい。

中川委員：基調報告の先進自治体からの報告については前に候補を挙げた。基調報告が3つあるので時間は長くとれない。近くで来てもらうならば、名張市の地域づくり推進委員会が適当である。

金谷委員：箕面市の元市長の橋本先生はどうか。現在は市民活動もされているので。

中川委員：それも考えられる。クローズアップ現代は志木市、太田市なので、関東方面はビデオで代理してもらう。市民自治検討委員会設立準備会の中間報告は、私以外の人をお願いしたい。次のパネリストは誰に出ていただくか。

野口委員：コーディネーターを先に決めないと、学識経験者のパネリストが決まらない。コーディネーターは状況をよく知っている人であることが望ましい。

相川委員：そうなると、コーディネーターは中川会長ということになる。

野口委員：鶴田委員をお願いしてはどうかとも思った。または会長をお願いしたい。

事務局：会場の件であるが、中央公民館は9月18日、19日のみ空いている。10月は第2、第3の

土曜日が空いている。コミセンは、9月から10月上旬にかけて全く空いていない。

中川委員：中央公民館の2階を使わず、1階で600人定員であれば、300人入れれば恰好がつく。基調報告で中間報告をする必要はあるか。

野口委員：これは最初の挨拶の中で言えばよい。

中川委員：説明的な挨拶をするということになる。

森委員：中川会長にはパネリストとして入っていただき、鶴田委員にコーディネーターをやってもらいたい。

鶴田委員：私の立場では意見交換の仕切りはできない。

中川委員：そうであれば、私がコーディネーターとパネリストを兼ねる。鶴田委員にも準備会の市民委員としてパネリストに入っていただく。近隣自治、コミュニティ自治の先進事例の代表者については、先ほどの名張とかが候補になる。

森委員：池田市の倉田市長はどうか。

中川委員：池田市はコミュニティ政策をまだやっていない。ただし、コミュニティ政策とは別のNPO活性化支援策としては先進的である。今4者候補があがった。池田の倉田市長、名張の亀井市長、箕面の元橋本市長、それに埼玉県志木市長、いずれもきちっと話してくださる方々である。もちろん相手の都合もあるが。

事務局：日を今日決めていただき、場所の確認をして、今後調整させていただきたい。

中川委員：この4人の候補の中で受けて立っていただける人にする。

野口委員：全部事務局任せは避けたいので、役割分担をしていく必要がある。

中川委員：生駒市でまちづくり活動を実践している市民団体の代表者についてはどうか。自治会関係で誰かおられないか。

上埜委員：おられるかもしれないが、一人に特定するのは難しい。

中川委員：ここについては、金谷委員に全権委任でお任せする。パネリストの準備会学識経験者委員は野口先生にさせていただき、相川先生には終りの挨拶をお願いしたい。

鶴田委員：北のコミュニティセンターは、バスが1時間に何本かという状況で、行きにくいのではないか。

野口委員：その意味では南のコミュニティセンターもよくない。

中川委員：それでは、中央公民館の2階は使わず、1階の前列に入っていただくということで決定したい。シンポジウムの役割分担について気になったのが、受付、質問表の回収を後援・運営協力団体の有志だけでというのはしんどいと思うので、市も一緒にやってほしい。

事務局：確認であるが、質問表について当日配布・回収するか、事前にもらうという2つの方式が考えられる。どちらがいいか。

中川委員：事前はさけた方がよい。やはり議論に集中するためには当日に質問してほしい。議論に参加した人は質問する権利があるが、来なかった人には答えることはできないというのでよいのではないか。2時間構成にして、パネリスト全員の話がすんだ後の休憩で回収すればよい。議論している最中であっても質問表を出したい人は出せばよい。

鶴田委員：まち全体の協働でまちづくりをするのであるから、この準備会でまず協働ができないと無理だと思う。一応担当が決まっているが、お互いの境界を意識する必要はないと思う。

森委員：シンポジウムの休憩時間に音楽演奏などがいるが、具体的にどなたかおられるか。

金谷委員：私のところのメンバーに奈良で一人だけハーモニカを教える資格をもっている人がいる。あとギターの弾き語りのできる人がいる。短時間であるので、この二人がいいと思う。

中川委員：この件については金谷委員にお願いする。

事務局：基調講演等については、会長と連携をとりながらということをお願いしたい。当日の運営については、後援・協力運営団体ということで金谷委員のNPO法人が中間支援NPOということになっているので、よろしければテイクオフ生駒さんをお願いしたい。今後正式に組み立てていく中で、必要があれば準備会の開催をお願いしたいので、ご了承願いたい。

中川委員：自治会連合会についても、動員力が最大であるのでよろしくお願いいいしたい。

3. その他

森委員：サブ・シンポジウムについて、小学校単位でやるのはまだまだ先のことが。

中川委員：それが最終目標になる。

事務局：メインシンポジウム1回ぐらいではどうかと思っている。サブでフォローして、意識の醸成を図るということ。森委員の話はタウンミーティングに入ってくる。タウンミーティングをするに際しては、地区でやっていくということ。

中川委員：サブ・シンポジウムもまだ準備会の主催が続く。できるだけ北部・中部・南部とも、ご自分のお住まいの地域で近いところでの各委員の協力はお願いしたい。

野口委員：各委員の住所が分散しているので大丈夫である。

鶴田委員：自治基本構想の策定フローをみたら、シンポジウムの開催と併行して職員研修とあるが、どのような進みぐあいか。

事務局：職員研修は一応1年間の計画があるので、そのあたりとうまく調和させていきたい。あくまでも中間報告がベースになってくる。それまでに職員についてはまず現況意識調査をやっていきたい。職員意識の現状をふまえて研修の質に配慮する必要があるので、その時はご協力よろしくお願ひしたい。

4. その他

次回については、7～8月頃の開催予定であるが、後日あらためて日程調整を行うこととなった。

以上